

単位数	2単位	学年	2学年
学科・学年・コース・組		3学期制	普通科 2年2～7組
使用教科書		高校生の美術2 (日本文教)	

平成31年度 シラバス

美術Ⅱ

1. ねらい・目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2. 授業の進め方や学習方法

毎單元ごとに、目標やねらい、取り組み方法等の説明をする。与えられた課題を、自己の表現で試行錯誤しながら、計画的に取り組んでいく。作品発表の場を設け、他者の作品理解やコミュニケーションを図る。また、わからないことや悩んでいること等は机間巡視で、質問しやすい環境を作り、問題解決のためのアドバイスをする。提出期限には全員が仕上げられるよう指導していく。

3. 副教材・参考書

1. 副教材 なし
2. 参考書 なし

4. 評価

(下記の4つの観点から評価した各学期の成績を統合し、年間の学習成績とする。)

○関心・意欲・態度

美術表現・鑑賞に関心を持っているか。

学習意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。

○表現の工夫

表現のために材料の選択や技法の使い方を工夫しているか。

自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。

○表現の技能

作品を造り出すために必要な材料の扱い方や、表現方法を身に付けているか。

○鑑賞の能力

美術作品を感受し、理解しようとしているか。

美術作品について、特徴や自分の考えを述べることができるか。

5. その他

美術の授業は、作家の育成を目的とするものではありません。美術の制作や鑑賞の活動を通して、人生を豊かにしていくためのものの見方や捉え方、自己や他者を柔軟に理解していくための価値観の育成などを目的としています。

美術の授業では、【素材の特性を観察し、使い方の工夫や配慮をすること】【自分の発想や考えを具現化していくこと】【粘り強く作品に向き合い制作すること】【自分の感性、他者の感性、多様な価値観を知り、理解していくこと】など、社会に出て、自己実現していくための大切な素地となる体験が学びとなります。

好き・嫌い、得意・不得意などあると思いますが、今しかない思春期の感性で、情操を豊かにして欲しいと願っています。

6. 授業計画

学期	月	時	単 元	学 習 内 容	留 意 点 等
1 学期	4	8	●オリエンテーション ●デザインの美しさと遊び心 (鳥草履デザイン)	・美術の学習について。 ・使う用途や場面を想定し、鳥草履に単色で構成し、デザインする。	・美術の授業の約束事を確認する。 ・条件を活かし、美しい構成と遊び心を意識してデザインさせる。
	5				
		2	●トーンと配色	・混色によるトーンの作成により、配色の基準を作る。	・アクリラガッシュの濃度調整など、画材の扱い方に留意させる。
	6	8	●学園祭ポスター作成	・配色の構成に重点を置き、ポスターを描く。	・同一トーンとアクセントの構成という条件をつける。
	7	6	●アニメーションで伝える	・ドローイングによりアニメーションを作成する。	・動きや変化、アングルの違いで表現させる。
2 学期	9	2	●使いやすさの工夫を考える(デザイン鑑賞)	・商品(写真)から、デザインの工夫を読み取る。	・デザインの機能と美しさについて考えさせる。
		2	●作家探求(土門拳)	・土門の作品や言葉から、1枚の写真がもつ表現力について理解する。	・作品と作家の言葉を照らしあわせながら鑑賞させる。
	10 11 12	12	●塑造(自然物)	・モチーフの特徴を動きやフォルムで捉え、粘土で制作する。	・細部にとらわれず、塊を意識させる。
		12	●紐づくりによる器(陶芸)	・手びねりで陶芸作品を制作する。	・土の特性を理解させ、使うことを想定した作品を意識させる。
3 学期	1	6	●模写による鑑賞	・模写をしながら有名作家について学び、鑑賞する。	・鑑賞を通して作者の生き方、在り方、自己を見つめる機会を与える。
		2	●芸術学習発表会	・今年度制作した作品を展示し、鑑賞しあう。	・展示を通して客観的に見直すことにより、自己の活動を振り返らせる。
	2	8	●卒業式壁画共同制作	・ちぎり絵の並置混合による壁画を共同制作する。	・卒業生へのはなむけの気持ちを意識させる。
	3	4	●組写真で表す	・自分や他者が撮った写真を組写真として表現する。	・予備として、いくつか写真を準備しておく。